

# 「生まれてくるひなたたち」の授業記録

生まれてくるひなたたち

新美南吉 作

そのすずめは、びっこでした。まだ、やつととべるようになったばかりのところ、いたずらな少年にとらえられてかた足をひもでかたくしばられましたため、かよい足はきずついでしまったのです。

そのびっこのすずめが、麦畑の黄色くなるころ、ある家ののきに三つのたまごを生みま

した。  
すずめは、うれしくてうれしくて、三つのたまごをむねの下にじっとだきしめていま

いだ。

いそがしいみつばちがとんできました。

「すずめさん、こんにちは」とみつばちは、のきの巣をのぞいていました。

「わたし、たまごを生んだの。」と、すずめは言って、むねの下からたまごをおし出してみせました。

「ほほう、こいつはすばらしい。たまごがかえったら、おいおいに みかんからとったじょうとうのみつをあげよかね。」と、みつばちは言いました。それから、ふと、

「あなたのように、びっこのひなが出なきやいいが。」と、何げなくつぶやきました。

すずめは、その日からたいへん心配しはじめました。

「わたしのようなびっこの子どもが出てきたらどうしよう。」と、すずめは、長いためのきをつくのでした。「わたしがびっこ、びっことすずめなまからのけものにされたように、この子どもたちもみんなからいじめられたらどうしよう。」

すずめは、あまり心配したので、体はおとろえて、はげしい昼のひざしには目がくらむようになりました。

ある朝三つのたまごは中からやぶられて、三びきのひながあらわれました。けれど、まだはねもない、目もあかない小さな赤んぼうなので、びっこかどうかはわかりませんでした。けれど、そのうちに、はねがはえ、くちばしもかたまつて、子すずめたちはとべるようになりました。

そこで、お母さんのすずめは、子どもたちを一わずつ、のきから地べたまでとばしたのです。地べたにつくと、子すずめたちはびっこをひかずにちよこちよこ歩き回ってえさをひろいました。お母さんのすずめは、巢の中からそれを見てどんなにうれしかったことでしょう。

畑の麦がかられた明るい昼でありました。

## 展開案

### 1 教師の朗読

2 このすずめは、いつ、どうしてびっこになったの？

- ・ やつととべるようになったころ、いたずらな少年にとらえられてかた足をひもでかたくしばられたから。

3 「すずめは、うれしくてうれしくて」どうしてそんなにうれしかったのだろう。

- ・ 初めて生むから
- ・ 3つもうんだから。
- ・ びっこの体でもうめたから。

◎ 「じっとだきしめて」いるすずめの気持ち、わかる？

- ・ 大事に育てよう。

- ・ じょうぶな赤ちゃんが生まれるように。
  - ・ 早く生まれるといいな。
  - ・ 生まれたら、うんとかわいがってやろう。
- 4 「びっこのひなが出なきやいいが」と言われたことで、どうして体がやせおとろえるほども心配するのでしょうか。

「びっこのひながでることがどうしてそんなに心配なのですか」

- ・ いじめられるために生まれてくるなんて、かわいそうすぎる。
- ・ 自分なことならがまんするけど、子どもたちがいじめられるのを見ているのはつらい

・ 3 びきもいじめられる。自分は一人だったのに。

5 「三びきのひながあらわれたとき、お母さんすずめはどんな顔をして見たと思いますか  
にここ顔？」

- ・ よろこんでない。まだわからんで。

6 いよいよ巢から飛ばすとき、母すずめはどんな顔だったでしょう。  
こわごわ。

7 「どんなにうれしかったことでしょう」ここの母すずめの気持ちわかる？

### 【授業記録】

T 教師の朗読。

治武くん。このすずめは、びっこで書いたったね。なんでびっこになったの。

治武 このすずめな、足な、くくられたさかいな、なんかあったの。

C 弱くなったん。

宣彦 いたずらな少年にとらえられて片足をかたくひもでしばられました  
治武 思いきりぎゅつとしばられやったん。

T ね、いたずらな少年にぎゅつと足をしばられちゃったんですね。それからびっこになってしまった。

それは、いつのこと？大きくなってから？

C やつとべるようになった時

T やつとべるようになったときって、いつごろ。人間で言うたら。

治武 あるけになったとき。

T うん、まだちっちゃいときやね。このびっこのすずめは、うんとちっちゃいときびっこにさせられたんだ。それから、ずっとびっこでいききたんですね。

そのびっこのすずめが、あるきの下に3つのたまごをうみました。すずめは、うれしくてうれしくて（C たまらない。）

「うれしくて、うれしくて」2回も書いたるね。

宏 どんだけうれしいかわからん。

T ちよつとここ考えて。3つのたまごを生んで、ただうれしいだけじゃなくて、「うれしくてうれしくて」ていうふうになるのはどういう気持ち持ちなのか、どうしてそんなにうれしいんだろう。

C ほら、たまごうんだで。

宏 たまごうめたでな、赤ちゃんができるでうれしいん。

朝子 西津君といっしょで、赤ちゃんができるで。

T 赤ちゃんが生まれることがうれしいね。やがて、赤ちゃんが生まれる  
かつじ君は？

勝仁 あんな、とべるようになったでうれしい。

T とべるようになったでうれしい？（C ほれは……の声）  
3つのたまごを生んだときだよ。

勝仁 ほれやったら、たまごがうごいとるで、

T ほう、おもしろいこと言ったね。胸の下でじっとできしめているとち  
よつと動いたりしたかな。やがてうまれるなあって思ってたうれしかった  
かなあ。

大裕 びっこになるかもしれんで心配（C はあ？）

T 「うれしくてうれしくて」やぞ。ここの気持ち聞いているんだぞ。  
後でまた変わってくるけどね。

「うれしくてうれしくて」の気持ち、もうない？

（C ……）先生、もう一つ考えたけどね。

智昭君はどう？

智昭 生まれてくるのがうれしい。

T 生まれてくるのがうれしい。はい、智将君

智将 ふつう、びつことかの病気がかやたらな、そんなにな、生まれへ  
んのに生まれたで。

T すごいこと言った。（C ほんまや）先生が考えてたこと、智将君か  
言った。今いわったことわかるかな？（C わかった。）

優子 あのなあ、体とか悪うしてたらな、あんまり赤ちゃんうめへんけど  
な、生めた。

宏 あのな、びっこでもえらいのになあ、たまごが生めたでうれしかった  
T こういわったんやね（みんなに）

びつこのかたわやったら、赤ちゃんだって生めないかもしれないね。そ  
れなのに、びつこの私でも生めた。ふつう、赤ちゃんが生まれるのはだれ  
でもうれしいんだけど、人なみ以上にうれしかったのは、びつこの私でも  
生めた、ということがあるかもしれないね。

まだ、考えた人ある？

C ……

T 「3つ」がヒント。1つじゃない。3つ。

C あっ、わかった！

美由紀 びつこやったら1こか2こしかうめへんのに、3こもうめたで

T ね。赤ちゃんが一人生まれてもうれしいのに3つも生まれた。

その次、「3つのたまごをむねの下にじっとできしめていました。」  
で書いてるでしょ。こんどは、ここで考えて。  
じっとできしめてたとき、どんなこと考えてたでしょうね。

なつ希 びつこの子が生まれないか考えてた。

直也 ほれはまだやんか。あんな、まだほれは、うれしいさかい。みつば  
ちが言うてからやで。

T みつばちが言うてから心配が始まるんやね。じゃ、直也君この時はど  
うやったの？

直也 あんな、はよう生まれてほしい。

朝子 うそみたいによるこんでる。

T うそみたいによるこんでるってどういうこと？

朝子 じっとできしめてたらなあ、自分はびつこやのにうまれたさかいに

勝仁は、最後の「どんなにうれしか  
ったか」と混同している。私の問い  
があいまいだったか？

大裕もどこを今問題にしているかわ  
かっていない。やはり、明確に問え  
ていなかったのだ。

「もう一つ考えたけどね」と押して  
みると、子どもたちもまた考え始め  
たようだった。

「びつこのすずめ」とつなげて読ん  
でいる。

この一言で子どもが一瞬ぴんとひき  
しまった。

美由紀は、「びつこなのに3つも」  
とそれまでの話を踏まえて発言して  
いる。私の対応は、単に3つという  
量だけにしてしまっている。

ゆめみたいにうれしい。

T このたまごをだいてるのが、夢ちがうかなあって。うん。いいでしょう。

宏 あのな、元気な子に生まれてほしい。

T 智昭君はどう？（智昭……）考えててや。宣彦君。

宣彦 強い子に生まれてほしい。

T 強い子になってほしいなあ、て思いながらじつとね。はい、智将君  
智将 うんとな、みつばちに見せてやるぐらい大事やったでな、うれしい  
T ああ、「いそがしいみつばちがとんできました」て書いてるね。みつばちは、たまごを見にきたの？（C ちがう。たまたま）たまたまきたんやね。それなのに、「私たまごをうんだの」て、わざわざ見せてるね。

大裕 じまんしてやるの。

T ほか、じまんしたかったんやね。

宏 みんなに知らせたい。

勝仁 あんな、元気で強くてかわいい赤ちゃんに生まれてほしい。

T 元気でかわいい赤ちゃんが生まれてほしいなあ。そうやってうれしくてうれしくて、……。ところが、みつばちが、「あなたのようにびっこのひながでなきゃいいが」といってから、（本文を読む）

「あなたのようにびっこのひながでなきゃいいが」と言ったときから

（C しんばいがはじまった。）

大裕 あのみつばちが、あんなこといいよらんかったらよかったんや。

T 体がふらつくほどに心配。どうして体が弱るほどに心配になったのでしょうか。ここの気持ちわかる？

邦臣 びっこやったらいじめられるかもしれんで

T いじめられたらどうしよう。はい、なつ希さん。

なつ希 強い子だと思っていたのに、「あなたのように、びっこになっただけかなあ」といわはったで、しんばいになった。

智将 私が、びっここといって、すずめの仲間からのけものにされたように子どもたちもみんなからいじめられたらどうしよう。

治武 いじめられたらかなん。せつかく生んだのに。

悟司 ほやしな、電線ぼうとかに止まるとき、とまれへん。

T びっこやったら、生まれてきても、電線にも止まれないね。

朝子 なつちゃんによう似てて、強い子やとばかり思ってたのに、

そんなに弱い子やったら、なかなかとべへんようになるしな、

（直也 ほんなんやったら、もう生まれたかてしようない）

今直也君がいわったけどな、生まれたつてしようがない。

T すこいこといわったね。哲也君聞いてた？もういつぺん言って。

治武 生まれたらよけいかなんの

T 生まれたらよけいかなん。よけいかなんってどういうこと？

治武 びっこの子が生まれるぐらいやったら生まれんほうがまし。

C いじめられたらよけいかわいそうやんか。（口々に言い出す）

T はい、そこんどこ、だれかうまくいってくれない？

邦臣 びっこやったらな、いじめられるさかいな、すずめのお母さんは悲

しくなる。

優子 このお母さんみたいにな、びっこになったらなあ、すずめたちにのけもんにされる。

ここらへんまでは、まだ書かれています。ことがらがでているだけ。

治武・悟司・朝子と具体的にになる。

「生まれたらよけいかなん」という読みをなんとか具体的にしていきたかった。

智将 大きくなって飛べるようになっても、電柱にとかに止まってもけがして、みんながしらんと踏んでいかったらもう死ぬんやでな、痛い目しんならんさかい、生まれん方がまし。

有香 お母さんもな、小さいときからずっとびっこになってきやったさかいな、友達にのむもんにされたことやらな、全部知ってやるさかいな、びっこの子どもが生まれてきやったらよけいかなん。

治武 経験してやるさかい。

T もし、びっこで生まれてきたら、このひなたちは、一生いじめられるために生まれてくるわけですね。苦しむために生まれてくることになりません。

お母さんは、わざわざつらいめをさせるために赤ちゃんを生んでしまうということになるわけね。そのことが、つらくてかなんかったゆうことやね。

ある朝……3びきのひながあらわれました。」

このとき、お母さんすずめは、どんな顔をして見たと思いますか  
わあ、生まれたってにこにこして見たでしょうか。

C ちがう

公美 今まで赤ちゃんがびっこの赤ちゃんかもしれんと思つてて、まだ目

もみえへんし、わからん。

宣彦 びっこかと心配してる。

T まだ、心配が続いている。

朝子 あのなあ、生まれたで、うれしいのはうれしいんやけどな、何にもまだ目もみえへんしな、歩くことができるかできんぐらいやさかい、まだびっこがどうかわからへん。

悟司 よけい心配

T よけい心配になる？

治武 うんうん。生まれる前は、どうしよう、と思つてやったけどな、生まれたら、いきなり歩けんかったらどうしようつて。生まれてしもたさかい、もうびっこでもしようがない。

T よけい心配だつて。悟司君、すごいこと言いましたね。だれか、そこうまくいつてくれない。

勝仁 よけいのよけいしんぱい

紗織 あのな、みんなにもいじめられてな、いじめられるのが多くなる。

智将 生まれてん時はな、心配やったけどな、もう今度はな、なつたらな、ずっといじめられたりしてな、すごさなあかさかい、よけい心配。

美由紀 あかちゃんの時も心配やけどな、大きくなってびっこやったらいじめられるし、自分かつていじめられたこと知ってるさかい、よけいかわいそうになるから、よけい心配になる。

T わかる？（みんなに）これが、もしほんとにびっこひいたら、ずっとそのままいきていかならん。それをお母さんは、みてんならんわけですね。心配が本当に近付いてくる。

朝子 ほやさかいなあ、お母さんはなつたことになつてみたい。

T もう、お母さんはもうひっこのひなを生んでしまった、ぐらいの気持ちになつてる。

直也 もうな、たまごのときにな、どうかしようと思つた

T もうつぶしてしまおう、とか？

直也 もう、どっか行つてしまおう。

T かわいそうで、みてられない。にげだしたいような気持ち。

そこで次を見てください。(読む)

「1 わずつのきから地べたまでとばしました。」  
龍法 そこがよけい心配。

T さあ、いよいよとばすというとき。

C すっごい心配なん。  
一番

龍法 ほんまにびっこになったらどうしようて、よけい心配になる。

勝仁 2倍のよけいのよけい心配

悟司 世界一心配。

C むちゃくちゃ。

大裕 とべたらよいけんどな、とべんかったらおしまい。

和樹 おちたら、もつともつと心配。

朝子 あんなあ、心臓が止まるかと思うぐらい。

智将 ここでな、もうびっこやったらつらい思いしてみなあかんでな、もう心臓が止まるぐらい心配なん。

美由紀 もう、心の中は、びっこか、びっこじゃないか、そのことばっかりまつてな、どきどきしてる。

直也 美由紀ちゃんといっしょでな、ちよつとつけたすけど、心のなかでびっこかびっこでないか思ってたな、もう何も思ってたやらへん。

邦臣 せつかく育ててきたのに、びっこやったらいやや。

朝子 自分でおろすんやけどな、見たくないような気持ち。

T 見たくないような気持ち。わかる？

大裕 わかる！こわいの。

T この一瞬で決まるんやね。手を離れた。次の瞬間、びっこかびっこでないか決まる。

朝子 びっこやったらな、先が思いやられる。

和樹 もしびっこやったら、お母さんは、なきそうなぐらいに。

智将 1びきでもびっこやったらな死にたいぐらい心配。

T そんな思いで離れたら、どうなったんや。

C びっこじゃなかった。

T 書いてあるね。(読む)

「どんなにうれしかったかわかりません。」

朝子 たまごの時はなあ、お日さまに当ると目がくらむようやったけどなうれしくて、そのおひさまは畑の麦が刈られたぐらいのうれしい日やった。

T おつとすごい。すごすぎて、みんなには何のことかわからなかったねもういつぺんいつて。

朝子 たまごの時は、おひさまが当たったら、目がくらむような昼やったのに、今は、畑の麦がかられるよううれしのおひさまやったさかいな、うれしいうれしい、すごくうれしかったの。

T 麦をかつたみたいにすかつとしたうれしさ。

智将 さつきは、とばすこともできんぐらい心配やったけどな、ちよこちよこ歩いた瞬間な、心配の気持ち全部ふつとんでいった。

宏 心配なやつがどつかにいった。

和樹 「どんなにか」て書いたるさかいな、あるいた瞬間、「よかったあ」

と思つてなうれしかった。

治武 何で今までそんな心配したんやろつて。

龍法 今までの心配を忘れてしまう。

智将 前、心配の気持ちがいつぱいつまってきたけど、今度はうれしい気持ち

ちがいつぱいつまってきた。

直也 うれしいてな、びっこもなおるぐらいうれしい。

T ね。自分のびっこがふつとぶくらいね。そのことを、ともこは、まるで明るくなった麦畑みたいだっていうのね。

智将 外たけじゃなくて、心のなか明るいの。

治武 ぱつとはれた。

---